

学校給食の専門誌
2021
June

学校の食事

特集 みんなで考える！ 給食の疑問 ①
納入時の衛生、手洗い・手袋

6
月号



グラビア 金丸知弘が見た食の目より
昔の中国をイメージした物語の中の料理作ってみました
たけのこの黄金焼き/たけのこ入りの粥/豚バラ肉の角煮/
猫の耳たぶ型の麺/牛乳入り卵白の淡雪炒め/
きゅうりの即席漬け など

おすすめランチメニュー

そうめん汁/ビビンバ/ロヒケイト/はるさめのナムル
ひよこ豆のから揚げ のり塩味/ハイナップルマフィン
アスパラガスとベーコンのサラダ/ほうしパン
ルーロー飯風ポークビーンズ/鶏肉のラタトウイユソース
ピロシキ/辛くない南インド風さばカレー

ひみこのはがいで



こいし歯科／こいし・こども矯正歯科 院長
子育て支援はぐはぐ代表

小石 剛

地域と共に

～歯科『だから』できること～

落語会で、地域予防

このたび、原稿を依頼していただき心から感謝いたします。

私は、大阪の北部に位置する、緑豊かな池田市で活動している歯科医師です。

病気になるらないようにする予防が、何より一番の医療だと考えています。

予防するには小児からと気付き、岡山大学小児歯科へ通い、岡崎好秀先生に師事しました。

診療所には予防歯科専用を作り、たくさんのお客様や手作りグッズがあります。またキッチン付きのイベントルームや、少し離れた

ところには畑を借りています。そして恐竜や動物の歯や骨を集めた展示コーナーを設置し、落語会用の提灯も常設しています。

それらを活用して、母親教室や離乳食体験教室、こども料理教室、畑での収穫体験会、歯や骨のお話し会、そして予防の啓発を兼ねた

地域とともに落語会を開催



落語会

畑で食育体験も！



念願の小児専門歯科医院開設

もちろん、落語用の提灯（ちょうちん）は常設！



2019年7月に念願の小児専門の歯科医院
を開設。もちろん落語用提灯常設

口は、入り口。



体は食べた物でできている
口も体の一部
体と心はひとつ
何を食べるか どう食べるか

といった習慣がむし歯を作ります。甘いものをグラグラ食べるのは良くないことや、歯磨きをしないとむし歯になるということは、子どもの頃から何度も教わることです。それで

落語会を定期的に行っています。

落語会は地域の町おこしイベントの一環としても開催され、2カ月に1回、10年以上開催しています。

私は予防には地域との協働が欠かせないと考えています。そのため、地元の助産師さんや栄養士さんなどと共に子育て支援の会を作

っています。こちらもありがたい

ことに、10年以上続いています。

なぜ地域と？ □の育ちは

社会の問題

むし歯は明白な生活習慣病といわれています。おやつやジュースの回数が多い、毎日歯磨きをしな

も繰り返しむし歯をつくってしまう子がたくさんいます。それは、その子や保護者だけの問題でしょうか？

また近年、子どもたちに悪い歯並びが目立ってきています。私は歯並びも同じく、生活習慣病だと考えています。嘔まずに飲み込ん

でいる、姿勢が悪い、口呼吸がひどいなどは、歯並びを悪くする大きな原因だと考えています。よく噛みなさい、姿勢を良くしよう、口は閉じよう、これらも繰り返し教わりますが、歯並びが悪い子はますます増えているようです。

それらは、その子や家庭の生活

口を見ると、育ちがわかる？



- ・むし歯は生活習慣病
- ・おやつのだらだら食べ
- ・歯磨きしていない
- ・当たり前のができていない？

子どもの問題？ 保護者の問題？

地域の問題？？



習慣が乱れているだけの問題でしょうか。私は、社会の習慣そのものが変わってしまっている可能性もあると考えています。むし歯や悪い歯並びはその子や保護者の問題だけではなく、それを取り巻く社会の問題でもあると考えています。

歯科診療所「だから」



こいし歯科 外観

歯科だから

とはいえ、子どもの取り巻く環境や社会を変えるのは決して容易ではないでしょう。しかし、視点子どもだけでなく、子どもを取りまく地域に向けること。そして何か行動していくことが、根本的

な解決に向けた具体的な一歩だと思っています。歯科は医療の中で特に予防の啓発がしやすく、また地域との協働も進めやすいと考えています。それは歯科医院には以下の特徴があるからです。

私の考える歯科診療所の特徴

- ・ 検診目的での来院が多い。
- ・ 特に小児歯科では検診目的の来院が多い。

・ 定期的な検診を受けていただきやすい。

これは、定期的に長い期間コミユニケーションをとる機会があること、啓発や健康教育をしっかりと行えることを示していると考えられています。

また、

・ 歯医者さんには行きたくないが、歯の健康については興味がある方が多い。

・ 歯の健康について聞いてみたい人は多い。

これは歯医者さんが地域に一步出ていきやすいことを示していると考えています。

一步、地域へ

地域に向けた行動がしたい、地域と共に予防を進めたい。そう思った時から、どうすれば社会に向けて行動できるのか？そうすれば



一步、地域に。

地域と力を合わせていけるのか？自分には何ができるのか？と少し頭を悩ませました。その一方で、地域の方々と共に生き生き活動する自分を想像してワクワク胸が踊ってきたことを今でも覚えています。

ちよつと離れてみてみる

少し遠くから、空高くから眺めてみる。思い悩んだ時には自分を俯瞰することになります。今何をしたいか、何が問題か、どんな手があるか、何を持っているか……大きな視点で考えるとどうか？すると自分はずでに地域の一部なんだと感じることができま

上空から見ると…



五月山から池田市を望む

した。そして、ちょうど町おこしのプロジェクトが立ち上がり、イベントのお手伝いのお誘いを受けていることに気付きました。主催は池田市の商店の有志の皆さん。ここから地域協働のきっかけをつかめるかもしれないと思い、すぐにお手伝いを立候補しました。

楽しいと

町おこしのプロジェクトは、池田市にゆかりのある落語をテーマにしていました。落語にちなんだ商品開発やお祭りを開催し、参加する商店のアピールや街の活性化を行っていました。1年間ほどイベントを手伝う中、ふと落語会を診療所で行ってみてはどうかと思いい立ちました。診療所で落語会をすると、落語を聞きに来る人に楽しく予防の啓発ができるかもしれない、と考えたのです。ちょうどその頃、院内で予防啓発セミナーのような教室を開催しておりました。予防の啓発に燃えに燃えて開

催していたのですが、なかなか思うように人が集まりません。繰り返して来てくださる方などほとんどおられませんでした。

しかし落語会を開催すると、初回から待合室に入りきれない人が集まり、通常8人の待合室に20人以上の方がすし詰めで見ても出るほどに。さらに1回では足りないので2回公演としました。

落語会といっても自分では落語ができないので、落語のできる人を呼んでいただき、演じていただきました。そして私は面白く予防の話をするというスタイルです。普段は歯医者さんに行かない人も、怖くて行けない人も、落語

すでに、地域と生きている。



五月山から地田市を望む

会なら行ってみたいと参加してくださっています。いつもは泣き顔の患者さんも、この時ばかりは笑顔いっぱいになりました。

町と共に

落語会は町おこしプロジェクトとして開催を続け、行政や商店とも協力して10年で70回以上開催を

続けています。商店の店主さんが出演してくださったり、参加者との町の散策を行ったりすることもあります。その甲斐あつてか、観光コースに入れてもらい、テレビや雑誌の取材もたくさんいただきました。何より、地域や行政の方と仲良くすることができ、おかげさまで子育て支援の会や歯科医師会のお仕事もスムーズに進めることもできています。落語会の規模も大きくなり、初めは演者が一人だったのが今は3人となり、落語会の体裁も整ってきています。いつもお手伝いに来てくださる地元大落語の学生さんとの交流も、また地域交流のきっかけになるなど、

さまざまな展開の元になっていきます。子ども落語会や落語教室も開催し、子どもや母親との交流や啓発にも大いに活躍しています。

正しいよりも楽しい

正しいけれどつまらない。それでは人が集まらず、伝えたくても伝えられない。共に活動する人も集まらない。それよりも、どうすれば楽しくなるか。予防の啓発や地域協働を行うには「楽しい」デザインが必要だと感じています。子育て支援の会も楽しいをテーマに活動を続けています。時には学術的なディスカッションも必要ですが、「正しい」が先行するとみ

「正しいこと」より「楽しいこと」。

「子どもが変われば、世界が変わる」



子育て支援はくはく 10周年記念イベント

んな疲れてきます。楽しいは地域協働のキーワードであり、継続と発展の大きなエネルギーだと強く感じています。

これから

「子どもが変われば社会が変わる。」日本の将来を支えていくのは、我々大人よりも、大企業よりも、子どもたちに他ならないと思

います。病気の多くは生活習慣の問題であり、大人になってから変えることは大変難しいものです。

子どもたちへの啓発や教育は、その子自身の将来の病気を予防することはもちろんですが、子どもたちの影響で周りの大人や家庭、さらには社会までも変える大きな可能性があります。例えば防煙教育において、学校でタバコの害を教わった子どもが親に禁煙をすすめる。親は禁煙をし、タバコへの価値観を変える。おいしい給食を食べた子どもが家庭でも作ってほしいとねだると、家庭の食事が変わり、消費行動が変わり、販売や企業が変わる可能性もあります。

「子どもより大切なもの、ありますか？」これは、私の中でますます大きくなる気持ちです。世の中はもつと子どもの目線で進めていくべきではないでしょうか。大人の都合ではなく子どもの都合で進めるからこそ、より良い未来が築けるのだと思います。

自分にできること、地域と共に行えること、これからも楽しく考えて、続けて行動していきたいと思えます。子どもたちの未来に、社会の未来に、笑顔と健康があふれますように！

読んでいただいた皆様に、何かのヒントになれば幸いです。ありがとうございました。